

入学者のことば

学生生活の感想

歯学部1年生 村上 大悟



つらい浪人生活を終えての念願の新潟大学入学、初めての一人暮らし、期待と不安の中で始まった大学生生活もあっという間に半年が過ぎました。歯学部は学生数が50人と少なく、みんながすぐに打ち解けることができ、学業の面でも生活の面でも支えあいがあったことが重要だったと思います。

1年目は教養を学ぶために五十嵐キャンパスに通うのに加え、歯学部生は特別に“早期臨床実習”として、毎週火曜日に新潟大学歯学部附属病院へ行き、実際に歯科治療の現場に接する機会が与えられます。朝早く起床し、午前中緊張し通しの実習はとても大変でした。しかし、患者さんと接し、治療の現場に立つことで、多くのことを学び取れたと思います。私がこの実習で得た最も大切なことは、“自分が進んでいくこととなる歯科医療の現場のイメージをより具体的にとらえることができ、今後の歯学部での学習にさらに意欲的に、目標を持って取り組むことが可能になった”ということです。歯学部1年生それぞれが、私のように何か得るものがあったのではないのでしょうか。

私たちが目指す歯科医師は、非常に大きな責任が伴う職業です。偏った考えをもっていたり、人間性に乏しかったりすると、決して素晴らしい歯科医師にはなれないと思います。歯学部生は6年間という長い期間を新潟大学で過ごします。この6年間で歯学部の仲間達と多くのことを学び取り、豊かな人間性を養っていかれたらよいと思います。

大学とは自分で学ぶ機会を提供してくれる場所

です。まだまだ学生生活はスタートしたばかりだと言えますが、これからも常に目標を持って何事にも積極的に挑戦し、有意義な時間を過ごしていきたいと思います。

新潟大学歯学部に入學して

歯学部1年生 大墨 竜也



私は新潟大学歯学部に入學して、地元新潟市の出身ということもあって、まずはじめに県外から来るさまざまな人との出会いに期待を抱いていました。

実際に、さまざまな地域から来た個性豊かな人たちと出会え、一つの目的が達成できたような気がしています。4月に行なわれた合宿研修でみんな打ち解け始めたようでした。しかし、入学してから4ヵ月、最初の頃にもった印象とはみんな違う部分、新たな個性を見ることが出来ます。

そして五月には歯学部運動会がありました。このときは正直盛り上がるかどうか少し不安もありました。しかし、そんな心配はまったく必要ありませんでした。みんな他の人を応援したり、足の早い人が活躍したりと、かなりの盛り上がりでした。そのあと打ち上げも行なったりと充実した運動会となりました。

楽しいイベントもありますが、やはり本業の勉強も疎かにはできません。私自身、毎週のように出されるレポートなどには戸惑いながら、締切前日の夜遅くまでやっていることもしばしばでした。今は夏休み前の避けられないテストに追われ忙しい日々ですが、これを乗り切れば、デンタルが待っています。私は卓球部に入ってこれから大会へ向けて練習もラストスパートです。岐阜で行

なわれることもあって少し旅行気分なところもありますが、全国からくる人と友達になるということも楽しみです。

考えてみると、歯学部に入ったという実感が一番湧いたのは、早期臨床実習でした。病院に入り、治療を間近で見学できたり、実際に患者の方と接することができたというのは、本当によい経験となりました。1年生のこの早い時期からのこの経験は自分なりの理想の歯科医師像を描くよいきっかけとなりました。

これからもクラスの仲間たちと楽しい大学生活を送りたいと思います。

新潟大学歯学部に入學して

歯学部1年生 飯塚 毅



今年の4月に僕はめでたく新潟大学歯学部の入学式を迎えた。新しい環境に入っていく不安感とこれからの生活への期待感にあふれていた。歯学部1年生は50人。その50人を目の当たりにして意外と少ないと感じた。この中から僕とカラオケに行く友達は何人いるだろう？ どんな雰囲気のクラスなんだろう？ 教授ってこわいのかな？ 不安を抱えた日は続く。

5月。歯学部運動会があった。僕は小学校の頃から夏休みのラジオ体操と同じくらい運動会が好きだった。当然張り切った。そして、気づいたときには全種目に参加していた。クラスのみんなにはかなり熱い人間だと思われたに違いない。このイメージが定着してしまうのだろうか？ 不安を抱えた日々はますます続く。

5月は部活を決める時期でもある。僕はバドミントン部に入部した。個性的な先輩たちと一緒にやるバドミントンは最高に面白かった。僕はすぐにバドミントンが好きになり、時間があればバドミントンのことを考えるようになった。頭をどこで切ってもバドミントンなのだろうと思うほどだった。まるで、金太郎飴のバドミントン版だ。し

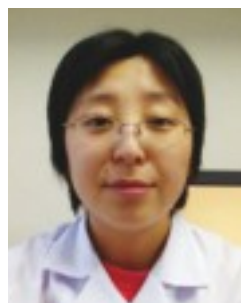
かし、大学に入ってすぐに打ち込めるものに出会えたことは僕にとって大きな喜びだった。毎日が充実していると実感できるようになったからだ。部活に入ったことで友達の輪が広がったようにも思う。さらに、先輩たちからいろいろなアドバイスをもらったおかげでそれまで抱えていた不安が解消された。だから、この部活に誘ってくれた先輩や友達に感謝したいと思う。

6、7月は部活、レポートなどのことにテンテコ舞いだった。しかし、部活の練習のためにレポートは早めに終わらせるように心がけた。

ここまで、僕の入学してからの出来事を簡単に紹介させてもらった。まだ4ヶ月だが、実に多くのことを経験させてもらった。今後、より多くのことが起こることは確実だ。また、それらは必ずしもいいことばかりではないだろう。しかしそれがいいことではなかったとしても、僕は困難があることに感謝をしたい。そして、自分の理想に少しでも近づけるように努力していきたい。

「大学院に入學して」

顎顔面解剖学分野 鈴木 晶子



大学院顎顔面解剖学分野(2解剖)に入學して4ヶ月が経ち、ようやく大学院の1日に慣れてきました。臨床の講座ではなく基礎医学研究の講座なので、患者さんに接することもなく、歯学部の中では歯医者イメージから一番遠いところですよ。去年までの講義を受け、実習で技術を習い、困ったときは先生のフォローで持ち直すという受身の6年間から一変して、自分で考え実行しないと何も始まらない、このギャップの大きさを痛感しています。そして、今まで以上に自分の計画性や要領の悪さを思い知らされる毎日ですが、自由に時間を使える楽しさも実感しています。

また、学生実習のライターとして教えてもらう立場から教える立場になったことで、教育の大変さと有難味をつくづく感じています。そして1・

2年生の実習に出る度に、5年前は自分もあんなに若かったのよねー、と時間の流れの早さも。先生方がいとも簡単に講義をしているように見えた裏には、その何十倍もの知識としっかりまとめられた頭があるからなのだ！ ということにようやく気づき、講義ノートや教科書と格闘しています。学生のときに自分が分からなかったことが今なら分かるわけではなく、質問されるだけでも緊張する上に何を聞かれるか予想がつかないので、前日は準備で大忙しですが、学部生と一緒に1から勉強するつもりでいます。

歯学部＝歯医者と考えがちですが、臨床と離れた歯学部もなかなかいいところですよ。好きなことや苦労した経験は必ず役に立つはずだと信じて、過ごして行きたいと思っています。

大学院進学にあたって

摂食機能再建学分野 田 島 卓



今年の4月から摂食機能再建学の大学院に進学しました。大学院に進学してから4ヶ月が経ちようやく医局にもなれてきましたが、まだまだ周りの先生方には迷惑をかけてヒヤヒヤさせているように思います。

私は6年生の夏に進路を決めましたが、その時は就職しようか、大学院に進学しようか悩んだものでした。そして、他人よりも臨床的に遅れをとるのではという不安もありましたが、義歯についてももっと勉強しようという思いが強く、大学院への進学を決めました。4ヶ月過ぎた現在、この選択は正しかったと思っています。大学院生として学校に遅くまで残って勉強しなければならない毎日を過ごしていますが、その毎日がとても充実して感じられます。そのため4ヶ月があつという間に過ぎてしまいました。

大学院では自分のスケジュールは自分で決められる事が学部生と違うところだと思います。つまり、自分が勉強したければそれだけ勉強ができる

ところです。学部生の頃は与えられた事をするようなやや受動的な姿勢で勉強してきました。しかし研究の方向性も決まりこれからはもっと積極的なものにしていかなければと思っています。

これから4年間、自分のこれからの人生で重要な意味を持つように精一杯頑張りたいと思います。

大学院に入学して

加齢・高齢者歯科学分野 那 須 真樹子



ちょうど1年前、大学院に進学しようか、研修医になろうか、ずいぶん悩んだ結果決断した大学院進学。そして、大学院に進学、加齢・高齢者歯科学に入局して早くも4ヶ月が経とうと

しています。入局当初は、様々なことにとまどい、本当に大学院生として4年間やっていけるのだろうかという不安が大きくおしかかっていましたが、周りの良き先生方に恵まれ、今でも不安はあるものの、前向きに充実した日々を送っています。

今は大学院生として、臨床・研究・教育に少しずつ触れさせてもらっています。臨床面では、様々な症例および治療法に直面し、実際に外来に出て目で見ることによってのみ得られることがたくさんあります。また、歯科医として、患者さんとのコミュニケーションのとり方は非常に大切であると感じています。研究面については、自分の中で不安要素の大部分を占めているのですが、先輩方の研究のお手伝いをさせてもらいながら、少しずつ自分の興味がある方向を模索している最中です。最後に、教育面では学部生の講義と実習に参加させてもらっています。自分が学生のころを振り返ってみると、あの頃は受身な態度で先生方に言われたこと、決められたことをひたすらこなしているのみだった気がします。今は実際に臨床に出ているせいもあり、講義で聞くことすべてがとても勉強になります。また、実習では教わる立場から教える立場になったわけですが、これも大変

勉強になるとともにその大変さを痛感しています。

長い目でみればあつという間であろうこれからの4年間。しかし、1日1日は多忙で様々なことを経験できるであろう4年間。この4年間という限られた期間の中でできるだけたくさんのかつを吸収し、その後歯科医として自分が生きていく過程で役に立てればよいと思っています。

大学院入学にあたって

組織再建口腔外科学分野 小島 拓



4月から組織再建口腔外科学分野の大学院生としてお世話になっております小島です。出身は埼玉の川越高校です。川越高校といえば、あの「ウォーターボーイズ」のモデル校で、私の高校の水泳部がシンク口をしていたことが映画になったものです。映画完成時には、高校で試写会がありヒロイン役の真鍋かをりが舞台挨拶に来たそうで、そのときすでに卒業してしまっていた私はその話を聞いた時、残念で残念でしばらく涙が止まりませんでした。映画では「男のシンク口」がテーマになっているように、実は私の高校は男子校で、そこで健康的な、ある意味不健康な高校時代を過ごしてまいりました。その後、新潟大学歯学部に入學し6年間の学生生活を過ごして、現在は組織再建口腔外科学の大学院生へと至る次第です。

さて近況ですが、まずこの1年間は、口腔外科の外來・病棟、麻酔科を4ヶ月ごとにローテーションし、来年から本格的に研究生活に入ることになります。現在は病棟をまわっているのですが、病棟に入ってすぐ看護婦さんに「先生、患者さんが痛いと言っていますがどうしますか？」と聞かれ、初めは「先生って誰だ？…俺のことか!？」と「先生」という響きに戸惑い、またどのような指示を出したらいいかでさらに戸惑いと慌ててばかりでした。しかし、同じような場面での先生方の

適切な指示・対応の仕方を見ることで非常に勉強になり、まさに現場で学んでいる状況で毎日が大変刺激的です。病棟ということで朝早くから夜遅くまで、土日も関係ない生活で正直大変ですが、入院した時不安そうな表情の患者さんが、手術を無事に終え元気になって退院し、最後に笑顔で感謝してくれたときは非常に嬉しくて疲れなど吹っ飛び、改めて歯科医師としてのやりがいを感じております。この貴重で有意義な臨床経験を来年からの研究活動にも活かし充実した大学院生活を送りたいと思っています。

技工士学校に入学して

技工士学校1年生 原田直彦



入学して4ヶ月。あつという間に時間が流れ、もう夏休みになろうとしています。

入学した当初は、こんな学校絶対にやっていけないと思っていましたが、今ではその生活にも慣れ、時間に追われながらも充実した日々を送っています。

20人のクラスということもあり、クラスメイトとはすぐにうち解けることが出来、今では愚痴を言い合えるまでになりました。

先輩達は、日々忙しそうにしていますが、後輩達に優しく接してくれ、小さい学校ならではの良さがあります。

最初に行った実習は、カービングでした。作品が完成しなくとも迫ってくる提出日。早く終わらせたいと思っはいるものの時間は過ぎ不細工になっていく自分の作品。ですが、1本完成させると、以外とできるようになり、この仕事は経験が大事なんだとつくづく思いました。

カービングの次に出た課題は、全部床義歯でした。なんだか本当に1歩ずつ歯科技工士に近づいているんだなと思いました。全部床義歯の実習は、初めてのことが多く何もかもが新鮮でした。しかし、うまくいかないことが多すぎて、本当にこれ

からやっていけるのかという不安でいっぱいになりました。これからは、これを作って生活していかなければならないのに。それでも何とか先生にアドバイスをもらい、完成が見えてきました。

短い時間の中でも気づいたことがあります。歯科技工は、1つ1つの段階をきちんと追っていないとよいものが出来ないことです。あまりにも当たり前のことですが、実習を重ねるたびに、より実感しました。

先輩達を見ていると、自分は本当に来年あんな風に臨床をこなせるのかと不安が襲ってきます。ある先輩は、2年になってからの方が楽しいと言っていました。

これからのことはまだ考えたくないですが、まず与えられた課題を1つずつ着実にこなしていきたいと思います。たぶん、これから一生の仕事となっていくので、夢を持ってやっていきたいと思います。まずは、時間がゆつくりと流れるような生活をしたいです。時間が迫ってこないような生活を。

技工士学校に入学して

技工士学校1年生 飯村 真紀子

私たちのクラスは男子15人女子5人、計20人です。今年の一年生の特徴としてよく言われること



2つは、例年になく男性が多いこと。年齢層がまちまちということ、だそうです。私も年齢に関しては少々上な為、なかなか過ごしやすい空間が構成されています。以前歯学部生に「技工

士学校ってどこ？」と聞かれたことがありました。確かに離れの小さい敷地でコツコツと日々学科、実技と励んでいます。が、パワーはあります。入学以前は、技工士学校といえば少々根暗（失礼）のイメージがありました。そんな考えとは裏腹に、いざ始まってみれば…。特に男性群は、完全体育会系、マッチョだらけ。体育の授業だけは「大変よくできました。」のハナマルを頂きました。

そんな私たちの担任は岡田先生。先生にはみんな感謝感謝の日々。今までの実習、カービング6本、全部床義歯と1日何度もだめだしを頂いて、おかげさまで今では1mmが大変大きなものと感じるようになりました。

そんな、なんやかんやで1学期が終了しようとしています。もうカウントダウン段階で2日あれば1ヶ月の夏休みに突入します。KさんもI君も入学しての一言を求めると「疲れた。」と私と同様の一言でした。正直、想像以上にハードな生活です。夏休みには、充電、リセットし新学期またがんばりたいと思います。

